

The **JIMMIN-SHIMBUN**
(The people's newspaper published every ten days)

The JIMMIN SHIMBUN
Tenmabashi-Kaikan. 2F
3-5-28 Tenmabashi
Kita-ku, Osaka, JAPAN
Tel. 06-358-4376

Subscription:
One year 10,000 Yen
(include air mail postage)

人民新聞

1994年 1月5日 通巻第836号
1968年12月12日第三種郵便物認可5、15、25日発行
発行所 **人民新聞社**
1部150円 購読料半年間3000円
本社 大阪市北区天満橋3-5-28 天満橋会館2階
☎(06)358-4376 FAX(06)358-7555
振替口座大阪5-88555
東京多摩支局 立川市柴崎町3-6-3 風林舎内

1994年1月



被占領下のわれらが人民、大衆は、占領軍に
対する闘いとしての、インティファダを開
始したとき、誰からも許可をえなかった。そ
れゆえ、自由と独立という目標の達成までは
誰もインティファダの継続を停止すること
などできない。

(パレスチナ民族統一指導部呼びかけ99号より)

(南レバノン、サイダのアイン・アル＝ハルクの難民キャンプ 写真＝川名生十)



「元氣を出そう」と朝日が叫んだ。偉ぶったエリ
ト朝日が務めて平易に元旦の社説で▼「自由主義・
国際主義・人間主義」を宣言、壇上で拳を振りかざ
すのは読売。ラッパを吹くのが好みの社主の下、号
令一発大衆を動員するヒットラーの再来を夢見てい
るようだ▼「坂の上の遙かな雲を見よ」
とサンケイは明治調。戦後民主主義の否
定の上に新しい国家観の確立を説き、こ
れ又、復古主義は一段と強まった▼「変
革へいかに立ち向かうか」と毎日日々ぐっ
と押さえ気味。刺激物に頼るのは弱さの
証明、じっくり行こうと、いつもの紙面

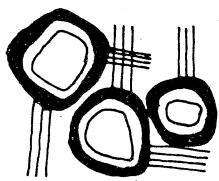
作りとは正反対の慎重派▼「今、この国に生きるこ
との意味」を格調高く並べ、日本も捨てたもんでも
ないよと一生懸命国民を励ましてくれたのが日経。
まるでどこかの経営者みたいに▼さて、わが人民新
聞は何というのか。エッ！声が小さいなあ。(M)

細川政権がもたもたしている裏には官僚の抵抗が
ある。規制緩和、市場開放、選挙制度改革の断行に
は業界、議員、官僚の癒着体制を崩さねばならぬ
▼長谷川慶太郎と屋山太郎の「日本の進路を問う」
でその構図が良く分かった。二人は第二行革審の参
与で当時の官僚の抵抗が余程頭にきたらしい、「ひ
ろめの集団」(上に目があって下が見えない)と揶
揄、政治改革のガンと叩きまくっている▼が、深刻
な不況も官僚体制と様々な規制が原因、市場開放を
し欧米並みの国に脱皮すれば再び景気が浮上する
というの、いかななものか▼工場の海外移転、産業
空洞化、首切り、外国人労働者の問題は一つふれ
ていない。賃金格差解消、雇用保障、労働市場開放
も同時にやればどうなるか▼例えば出入国管理の規
制を緩和したらアジアの労働者が日本に殺到する。
それだけで日本の経済、社会はお手あげた。矛盾が
激化し、政策不能に陥っているのである。(F)

♪米の自由化が決まりました／歴史的事件です／
僕は、子供のころ／毎朝神棚にごはんをあげさせら
れました／米は食べるものではない／いたたくもの
と教わりました／これからはただの商品になって
しまうのですね♪ 昨年の暮れに田んぼ道を車で
走っていると、ラジオから流れてきた弾き語りの
曲にふいをつかれて、不意の涙がでてきた▼価値観
の多様性へと向かうひとつの努力が、貨幣世界へ
の一元化に、一歩後退を強いられたガットの調整案
受け入れであった▼これから農村に住み、農業を
営むことは、人間的な力量がますます必要になっ
ていく。意識的な選択、自然とむきあう哲学、文化を
うみだす情感、そして確かな営みを持続する生活
観——これらベーシックなものを発信しつつける農
村に希望を見いだしたい▼組織の利害のために運
動する主体を越えて、新たな価値観を創る主体が要
請されている。(I)

圧倒的な票決で
永年の悲願——独立を実現

四月二二日、エリトリア人民は、遂に独立を達成した。米・ソ両国の介入と言う困難な状況下、解放闘争を勝利に導いたこの闘いは、「90年代最初の人民革命成功例」として、将来の社会闘争に大きな教訓を持つものと言える。新年号より連載で、米誌「マンズリー・レビュー」に掲載された、エリトリア革命のルポルタージュを紹介する。

エリトリア革命
ただいま進行中

昨年4月、30年を超える解放戦争の末、エリトリア人民は、遂に独立を達成した。米・ソ両国の介入と言う困難な状況下、解放闘争を勝利に導いたこの闘いは、「90年代最初の人民革命成功例」として、将来の社会闘争に大きな教訓を持つものと言える。新年号より連載で、米誌「マンズリー・レビュー」に掲載された、エリトリア革命のルポルタージュを紹介する。

(訳・協義義明 見出・編集部)

異様な
地政学的変転の
繰り返しの中で

エリトリアは一九二六年にエチオピアによって併合された。それまでエリトリアとエチオピアは、紅海及びエリトリア高原に軍事基地を確保しようとする米国の工作による、国連主導の連邦を作っていた。アスマラに

一九七四年、デルグ(委員会)を意味するアムハラ語と呼ばれた軍事委員会がハイレ・セラシエ皇帝を追放、エチオピアを「社会主義国」と宣言した。その後エチオピア革命の指導部を選び出すのに一年半難行、その間米軍は軍事臨時政権を支援し続けた。その間にエリトリア人民は自国の殆どを取り戻し、隣国ソマリアはソマリア人が多数住むオガデン地方の領土回復を要求してエチオピア東部に侵襲した。

敵から奪い取った
武器だけで
辛抱強く

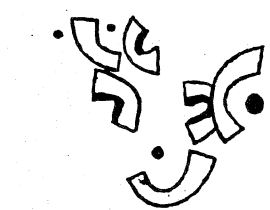
この間、エリトリア人民解放戦線(EPLF)は、一〇万人をこえるエチオピア軍の大攻勢や次から次へと導入される高度な新兵器に対して、主に敵から奪い取った武器だけで辛抱強く闘った。彼らの主たる財源は出稼ぎのエリトリア人の送金が、ハイレ・セラシエ皇

一九七四年、デルグ(委員会)を意味するアムハラ語と呼ばれた軍事委員会がハイレ・セラシエ皇帝を追放、エチオピアを「社会主義国」と宣言した。その後エチオピア革命の指導部を選び出すのに一年半難行、その間米軍は軍事臨時政権を支援し続けた。その間にエリトリア人民は自国の殆どを取り戻し、隣国ソマリアはソマリア人が多数住むオガデン地方の領土回復を要求してエチオピア東部に侵襲した。

この間、エリトリア人民解放戦線(EPLF)は、一〇万人をこえるエチオピア軍の大攻勢や次から次へと導入される高度な新兵器に対して、主に敵から奪い取った武器だけで辛抱強く闘った。彼らの主たる財源は出稼ぎのエリトリア人の送金が、ハイレ・セラシエ皇

戦術を柔軟にし
人民を高いレベルで組織

エリトリアの国際舞台登場が持つ意味は、単にこの革命運動が、多様な社会を統一し、民主化し、発展させる継続的な闘いの中で新天地を開きつつある、というだけではない。闘いの歴史が、この闘いをひどく誤解していた人々に対し、重要な教訓を提示していることも見逃せない。何もエリトリアが革命闘争の新しい見本になると言っているのではない。過去一〇年間に世界の各地で見られた政治的大変動から見れば、エリトリアの闘いは馬鹿げて見えることは確かだ。しかしエリトリア人に、しっかりと自分の置かれた境遇を把握し、戦術を柔軟にし、人民を高いレベルで組織し、希望に溢れた優れた指導部があれば、平等と社会正義を根幹に据える運動が、単に実際の戦場だけでなく、エリトリアの闘いの場でもあった国内及び国際的政治の場でも、大きな困難に打ち勝つことは可能である、ということを示した。一九四〇年代の半ば



この間、エリトリア人民解放戦線(EPLF)は、一〇万人をこえるエチオピア軍の大攻勢や次から次へと導入される高度な新兵器に対して、主に敵から奪い取った武器だけで辛抱強く闘った。彼らの主たる財源は出稼ぎのエリトリア人の送金が、ハイレ・セラシエ皇

この間、エリトリア人民解放戦線(EPLF)は、一〇万人をこえるエチオピア軍の大攻勢や次から次へと導入される高度な新兵器に対して、主に敵から奪い取った武器だけで辛抱強く闘った。彼らの主たる財源は出稼ぎのエリトリア人の送金が、ハイレ・セラシエ皇

この間、エリトリア人民解放戦線(EPLF)は、一〇万人をこえるエチオピア軍の大攻勢や次から次へと導入される高度な新兵器に対して、主に敵から奪い取った武器だけで辛抱強く闘った。彼らの主たる財源は出稼ぎのエリトリア人の送金が、ハイレ・セラシエ皇

意味は、この逆境時代にあって何が可能であるかを示した点であるが、九〇年代最初の人民革命成功例として将来の社会闘争に大きな教訓を持つものと言える。エリトリア解放闘争は他の民族闘争と際立って異なる特徴をもっている。その特徴を再認識することはエリトリアにとって大切な遺産となるだろう。

一九七四年、デルグ(委員会)を意味するアムハラ語と呼ばれた軍事委員会がハイレ・セラシエ皇帝を追放、エチオピアを「社会主義国」と宣言した。その後エチオピア革命の指導部を選び出すのに一年半難行、その間米軍は軍事臨時政権を支援し続けた。その間にエリトリア人民は自国の殆どを取り戻し、隣国ソマリアはソマリア人が多数住むオガデン地方の領土回復を要求してエチオピア東部に侵襲した。

一九七四年、デルグ(委員会)を意味するアムハラ語と呼ばれた軍事委員会がハイレ・セラシエ皇帝を追放、エチオピアを「社会主義国」と宣言した。その後エチオピア革命の指導部を選び出すのに一年半難行、その間米軍は軍事臨時政権を支援し続けた。その間にエリトリア人民は自国の殆どを取り戻し、隣国ソマリアはソマリア人が多数住むオガデン地方の領土回復を要求してエチオピア東部に侵襲した。



世界の中の殆どの国は——国際的左翼勢力も含めて——エリトリアの闘いはもう続かないだろう、歴史の脚注に僅かにのるだけだ、と思った。ソ連に従って左翼国家の多くが援助の手を引っ込めていった。二極体制の世界にあって、エリトリアのようない匹狼の解放闘争は帝国主義者の利益に奉仕するだけで、世界の耳目を集めているエチオピア革命にとって好ましからぬ障害物である、という論理が通った。せいぜい時間と共に消え去るか米国の傘の下代理人に落ちぶれる、と主張する者もいた。これらは皆、その後の展開が示すように、大きな間違いであった。

よ・ん・で・み・ま・せ・ん・か！

1週間のニュースを要約し、短かいコメントや解説をつけて

News Letter

現代をつかむ人のためのニュースファイル

毎週金曜発行、A4版、8～12ページ

購読料＝月2,000円(送料共)

申込み＝人民新聞社・大阪市北区天満橋3-5-28天満橋会館2F

☎06-358-4376 郵便振替 大阪2-109084 渡辺政治経済研究所

解放5ヶ月後の 首都アスマラ

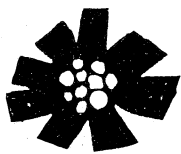
(二面からつづく)

私が一九九一年一〇月、解放の五ヶ月後にエリトリヤの首都アスマラ

に行ったとき、エリトリヤ人はまだ解放を祝っていたが、すでに戦いの灰の中からアフリカで最も新しい民族国家を作るべく困難な仕事に着手していた。夕方ともなれば、アスマラの街路樹に縁どられた通りや歩道には歩行する人々がいっぱい居た。二〇年間毎夜外出禁止令が出されたことを思えば、こんなにノンビリ散歩できるのは素晴らしい。

戦火で疲弊した 経済の再建に取り組む

暫定政府が一番力を入れているのは、民主的な政府機構の建設と戦火で疲弊した経済の再建だ。最初に手をつけた事業の一つはインフラストラクチャーの再建であった。そのためにEPLF軍全員の少くとも一九九三年の国民投票まで無給で勤務を続行することになった。一九九一年一月「国家奉仕令」が出され、一八才〜四〇才の国民はすべて奉仕任務に登録するように呼びかけられた。仕事についていない者や学生は、一年〜一年半の奉仕任務につくようになった。大学生は地



方で識字運動をやるように要求された。兵士と、こうして徴募された人たちの奉仕活動は、道路建設、丘の斜面に段々畑をつくること、土で作ったダムや溜池をつくること等であった。

文化的多様性の尊重を 求める戦いの蓄積の上に

EPLFが多党制を認めたのは、外部の圧力のせいとか解放戦線の価値観が変化したためではない。永年の社会運動と陰の政府の経験から生まれたことである。この転換期にあつて彼等が直面している最重要な問題は、成長と社会正義をどのように調和させるか、であった。

自らの文化的多様性の尊重を求める戦いをしたこともあって、EPLFは早い段階からエリトリヤ内の多様性を認め、それを良いこととして尊重、その上に立つて建設を進めた。一九七〇年代後半と八〇年代前半、学校教育のカリキュラムはチグリン語、チグレ語、アラビア語で書かれたが、最終的にはエリトリヤ人の話す九言語全部で小学校教育を行うことが目的とされている。一九九三年まで初頭教育(五年生までは義務教育)は六言語で行われていた。文化に従事する労働者は同国の各部落の伝統音楽、

舞踊、工芸を教え、活動家達は老人から伝承伝説を聞いて記録化し、各部落の歴史資料を収集した。これは国の社会的・経済的変革は歴史的遺産を踏まえて、その中から着手し、それを発展させるようなものでなければならぬ、という信念があるからである。

マイノリティが抑圧の恐怖から解放されて自らの文化伝統を発揮できるだけではない(それ自身一つの前進ではあるが)。もっと大きなことは、マイノリティの文化を他の部族・民族が新しいより豊かなエリトリヤ文化の一部として包摂していったことだ。それと同時に、宗教や民族性を主軸にした政党の結成は禁止する方針であることも、EPLFは明確にした。

社会政策でも、初期には所得のラジカルな再配分が旗印となっていたが、それはもっと完全な機会の再配分、つまり、他人に過大な社会的犠牲

市民ネットワークの一年と展望

今年も眞面が面白い

眞面市民ネットワーク・藤沢純一

今年の新年は、国会が中途半端な状態で休会しているの、何か落ち着かない。今年の政治情勢を予眺するようなのが今の国会なのではないか。私たちの力によって、小選挙区制廃案に追い込めるところまで来ています。そして、ついでに裏切り者の社会党に引導を渡す時でもあります。私たち「政治を変えるには生活の場から」という理念でこの一年、眞面の地で活動を展開してきました。私自身は、眞面を出るの

けることを行動の大きな柱にしてみました。発行数は当初の倍になり、人

時評

短評

私の直言

ず、カミツイテきた連中もいます。行政内部の問題も市民とともに考えようという姿勢を貫いてきました。石の上にも一年で、市民相談、市民からの情報が途切れることなく入ってくるようになり、昨年後半は全くの休



活動を面白くしようと思っっています。これまでは様子を見るため、一応慣行に従いつつ、新しいことをやってきましたが、今年からは、いよいよ既成政党会派にはない市民派の姿勢を貫く。一思っ

ています。また、私た

1月号「特集」 社会運動に どんな政治が可能か

農業と農民・野添憲治 新保守主義・山本晴義 連帯の新しい方法・伊藤誠 労働運動・渡辺雄三 コメ問題を考える視点・大野和興 意見広告と自治体の平和条令・吉川勇一 自衛官・人権110番・小田原紀雄 反天皇制運動・中川信明 市民の新しい政党・大久保青志 民衆の政治選択・白川真澄 連立と分裂の時代の「地域」・丹野清秋 勇気ある市民・大島幸三 政府にできなくて市民運動にできること・タグラ・ラミス ビラマ・福富節男「討論」憲法と民衆運動・千本秀樹・国富建治・富成千之

東ドイツの民営化方式は成功したか・河西勝 フランス緑の党の経済政策・アリビエツツ・若森文子訳「派兵時代を断る」池田五律

Forum

月刊フォーラム

〒104 東京都中央区東日本橋1-41-5 文芸春秋社
Tel:03-3367-0943 Fax:03-3221-3667 発行所:社会評論社

こうすればできる死刑廃止 フランスの教訓

伊藤公雄 木下誠編
一九八一年九月、ミッテラン政権での法相バダンテールは保守党をも巻き込み、死刑制度を廃止した。世論の多数は死刑存置に傾いていたという。ではどのようにして、死刑廃止を実現させたのか。本書はこの百年のフランスでの死刑存置論争を、新聞記事、議会での論争、インタビューなどで構成。フランスの教訓を日本に生かすために、ぜひ読んでほしい。税込1545円

死刑囚からあなたへ ①②

●好評既刊
日本死刑囚会議「妻の会」編著
国家による殺人「死刑」を拒否し、生きて償いたいと主張する死刑囚たちの手紙。死刑囚の息づかいを聞くと、ところから、死刑を考へることが始まる。
死刑廃止論、小事典、資料多数。
①②各税込2500円

インパクト出版会

東京都文京区本郷二-130-14
03-3818-7576 FAX:03-3818-8676



ゼネコン疑惑 糾弾!

電気通信産業労組

ゼネコン疑獄糾弾!!

細川連立政権打倒!!

小選挙区制粉砕!!

全労協と共に闘い抜く!!

今こそ、 私たちの力で

東京ユニオン

もったいなく人権
不況の嵐のもと、人を

人とも思わない毒ガスが
蔓延しています。今こそ
私たちの力、ユニオン人
権労働運動の大爆発で、
人権無視を一掃しましよ
う。

ユニオンは皆さんと共に

当然の権利を 行使していく

福岡地区合同労組

福岡では、師走を迎え
ようという頃になって、
抜き打ち的に拡声機規制
条例制定の動きが表面化
し、当労組も最大限の取



今年もよろしくお願
いします。

勝利を 目指します

柳本合同労組

り組みで、反対行動を取
り組みました。しかしな
がら条例は可決され、二
月一日から施行となりま
す。本年は、この条例に
よる弾圧が予想されます
が、屈することなく私た
ちの当然の権利を行使し
て行く所存です。今年も
倍旧の支援、共闘をよろ

今後ともご支援ご協力

共産党は伊藤律氏の 名誉を回復せよ

東京・井之川 巨

一九五三年九月、伊藤
律氏は日本共産党を除名
されたが、このとき僕も
共産党の末端に所属して
いた。律氏の除名には幾
つかの理由が挙げられて
いたが、そのいずれもが
僕らには極めてわかりに
くいものだった。理由の
一つに戦前、ゾルゲ事件
で尾崎秀実（はつみ）を
権力に売り渡したという
のがある。しかし除名か
ら四十年を経て、それが
全くの根拠のないもので
あることが判明した。そ
れを証明したのが渡部富
哉著『偽りの烙印・伊藤
律スパイ説の崩壊』（五
月書房）という著作であ
る。

著者の渡部富哉氏も一
九五〇年代の共産党員、
現在は社会運動資料セン
ター代表だが、文筆の専
門家ではない。目と耳の

その追跡劇はなまじ
る。SF小説も及ばない興
味津々たるものがある。
と同時に真実だけが持つ
重さと説得力がある。

ドキュメンタリーの山
は、何といっても当時の
和歌山県特高の証言を得
る場面だろう。老特高の
述懐で、伊藤律氏の自供

産党、松本清張氏（『日
本の黒い霧』の著者）、
尾崎秀樹氏（『ゾルゲ事
件』『生きていくユダ』
等の著者、尾崎秀実の異
母弟、名は「はつみ」と
読む）らが見事にハマッ
てしまった事実をも明ら
かにする結果となった。

一九五三年一月二二
を一九五五年、宮本共産

党も追認し、いまもって
その処分は取り消され
ていない。松本清張氏は
すでにないが、尾崎秀樹
氏もまだ自説を撤回、謝
罪することをしていな
い。

律氏の名誉が回復され
ることは、律氏の革命家
としての名誉、一市民と
しての名誉という点から
だけでなく、曲げられて
きた日本革命運動史、現
代史を正す上からもゆる
がせにできない。日本共
産党と尾崎秀樹氏は、一
刻も早く律氏へのスパイ
の烙印を訂正すべきであ
ろう。そのことを率直に
認めようという革命政
党とは何か、文学者とは
何かをい問いたい。

党も追認し、いまもって
その処分は取り消され
ていない。松本清張氏は
すでにないが、尾崎秀樹
氏もまだ自説を撤回、謝
罪することをしていな
い。

律氏の名誉が回復され
ることは、律氏の革命家
としての名誉、一市民と
しての名誉という点から
だけでなく、曲げられて
きた日本革命運動史、現
代史を正す上からもゆる
がせにできない。日本共
産党と尾崎秀樹氏は、一
刻も早く律氏へのスパイ
の烙印を訂正すべきであ
ろう。そのことを率直に
認めようという革命政
党とは何か、文学者とは
何かをい問いたい。

この春、いよいよ二週目の 地球一周に旅立ちます

ピースボート

自然破壊に
抗して

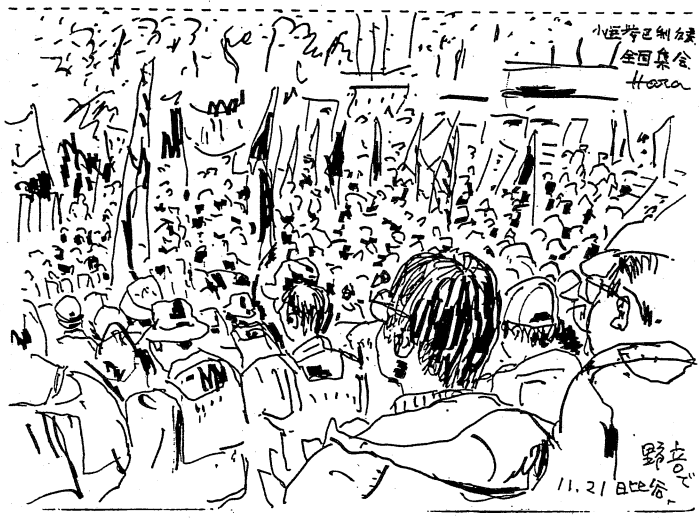
女川原発差し止め
訴訟原告団

五五年体制の中でのし
崩しに破壊されてきた
開発・原子力開発等々に

自然環境と農・漁業は、
衣を換えて登場した細川
政権で更に自然の循環ま
でも根底から壊され、生
命が危機に晒されようと
しています。この諸悪の
根源、小選挙区並立制・
憲法改悪、米輸入化・乱
開発・原子力開発等々に

自然環境と農・漁業は、
衣を換えて登場した細川
政権で更に自然の循環ま
でも根底から壊され、生
命が危機に晒されようと
しています。この諸悪の
根源、小選挙区並立制・
憲法改悪、米輸入化・乱
開発・原子力開発等々に

自然環境と農・漁業は、
衣を換えて登場した細川
政権で更に自然の循環ま
でも根底から壊され、生
命が危機に晒されようと
しています。この諸悪の
根源、小選挙区並立制・
憲法改悪、米輸入化・乱
開発・原子力開発等々に



民族の危機 「国連・I
MF・世銀」などへ、ど
んどん広がっていきまし
た。

ピースボートのスタン
スはいつも、ひとりひと
りが主体となって、同じ
目の高さで相手と交流す
るということ。そして見
えてきたことは、クニと
いうまとまりが、さまざま
な矛盾を生み出してい
るという事実でした。

この春、ピースボート
はいよいよ二週目の地球
一周に旅立ちます。そし
て地球のあちこちで、い

くつもの国境を超えま
す。そのとき、クニとい
うものを疑ってみよう。
クニを通して物事を考え
るのをやめて、私たちひ
とひとり、思い思いに
地球に語りかけたい。
そうして見えてくるもの
を信じたい。そんなこと
を考えているのです。
▼今年も、どうぞよろし
くお願いします。

外国人参政権は
なぜ「あつて当然」
奈良・大和参山

またゾロ開発疑惑が横
行してきており、この問
題をつつこんで取りあげ
て下さい。

この調子で
頑張つて
長野・S

たすればよい。「国籍の
壁」をつくっているのは
日本人ではなく、一部の
外国人である。不当な要
求が続けば排外主義が興
るの、むしろ当然であ
る。

仲間内の動きだ
けではないか
兵庫・Y

貴紙を読んでいる友人
からアノ新聞は少しも面
白くない。新生の方
が余程読み応えがある、
で新聞を断つてくれとい
うのだ。とにかく断りた
いなら自分で断れ、面白

たすればよい。「国籍の
壁」をつくっているのは
日本人ではなく、一部の
外国人である。不当な要
求が続けば排外主義が興
るの、むしろ当然であ
る。

たすればよい。「国籍の
壁」をつくっているのは
日本人ではなく、一部の
外国人である。不当な要
求が続けば排外主義が興
るの、むしろ当然であ
る。

たすればよい。「国籍の
壁」をつくっているのは
日本人ではなく、一部の
外国人である。不当な要
求が続けば排外主義が興
るの、むしろ当然であ
る。

たすればよい。「国籍の
壁」をつくっているのは
日本人ではなく、一部の
外国人である。不当な要
求が続けば排外主義が興
るの、むしろ当然であ
る。

たすればよい。「国籍の
壁」をつくっているのは
日本人ではなく、一部の
外国人である。不当な要
求が続けば排外主義が興
るの、むしろ当然であ
る。

たすればよい。「国籍の
壁」をつくっているのは
日本人ではなく、一部の
外国人である。不当な要
求が続けば排外主義が興
るの、むしろ当然であ
る。

■会議は華やぐ

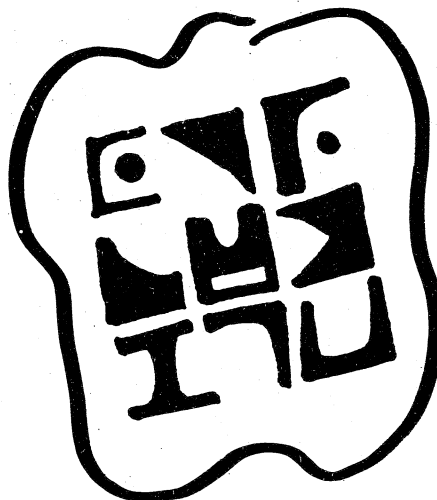
さていよいよ訪朝目的のメインの会議です。この「報告記」を読むであらう公安ボリスの面々も大変関心のある所でしょうが、残念ながら、簡潔に！簡潔に！

まず「人道帰国運動」については、①子供達の出生届を提出（弁護士等を通じて）、戸籍（国籍）をかりとる。②子供達のパスポートを獲得して順次帰国を実現する。③女性達のパスポートを

「人道帰国の会」
訪朝報告記（下）

大阪・A生

次に、柴田氏の裁判については、年内か九四年初めにも判決が出されるであろう（実は十一月十七日に最高裁より上告棄却で懲役五年という不当判決が確定）との山中氏の報告があり、獄中や出獄後の支援体制について話し合いました。



情勢分析もいろいろと多くの意見が出されました。いわゆる「核査察」をめぐる対米交渉は、共和国が主張している「一括方式」で解決する可能性が

性が高いという意見が出され、女性達の「旅券法違反」を口実とする不当なガサ入れに対しては、東京地裁で統一して「準抗告」裁判を行い、更に「国賠請求」も闘っていく方向で確認しました。

また、「チョンソン旅行クラブ」の運営にもかかわる問題として、共和国政府が九四年には日本人旅行者を受け入れるのかどうかという事も話し合われたのですが、樂觀論と悲觀論とも出され、な

冒頭にも触れた通り、私達訪朝団は、「朝鮮革命博物館」をはじめ多くの施設を見学しました。簡単に感想を記します。

私達が平壤市に到着した次の日、平日だということに、工場も銀行も病院（！）も休みでした。街中なせ休みか皆さん解りますか。何とこの日は「白菜を収穫してキムチにする日」だったのです。

白菜を満載したトラックを数台も街で見かけました。反共キャンペーンを展開

「クラブ」の立て直しと強化を進める事は確認されました。

最後に報告として、朝鮮のガイドブックを作製している（一部は月間マルコポーロ十二月号に掲載）ことや、出版活動

「革命の首都で」

一九九四年「政界再編」

幕明けの年を迎えて

政策抜きの野合の場と化した政界

政治改革法案の成否をめぐる、年明けにも解散総選挙との情報に乱れ飛ぶ政治の混乱の中で暮れた一九九三年。

明けてみれば、結局、自民党は腰砕け、崩壊同然の社会

党に迫力なぞあるはずもなし。未だ不確定要素は残されているものの、参議院での政治改革法案不成立―解散総選挙との、幾分「希望的観測」

社 説

を含めた予測は吹き飛び、希代の悪法・政治改革法案は、小沢一郎・公明党の筋書きに

よる強硬路線で、可決成立の見通しが強くなってきた。

それにしても、そうした表面上の情勢の動きとは別に、

政界が完全に政策抜きの野合の場と化し、自分の首をつなぐための政界の組合せを求め

て右往左往する国会議員の醜態は、日本の政治の深刻な危機を象徴するものであった。

が、危機は政治だけにとどまらない。マスコミ各紙の新年の社説が如実に示しているように、戦後一貫して目先の利益のみを追いつけてきた日本が、冷戦構造の崩壊後の未経験の困難に突き当たり、ふと我に帰った時、その困難を

新保守翼賛政権へと向かう流れの中で

そして、各政治勢力が糸の切れた風のように揺れ漂いぶつかり合う混沌の中で、今年、我々は「政界再編」の第二幕を迎えることになる。赤松、田辺らによる社会党内での「デモクラット」旗揚げ、

自民党の西岡らの離党、社民連の解体決定……等々、その流れは既に始まっている。

しかし一方、コメ輸入自由化、消費税率のアップ等、鳴物入りで登場した細川連立政権の実態が誰の目にも明らか

になるにつれ、美辞麗句に満ちた「政界再編」の空々しさもまた浮き彫りになりつつある。政権への妄想に取り憑かれ「死に体」である自覚すらなく、コップの中の争いを続ける社会党の惨状を見るまでもなく、「政界再編」後に登場する体制とは、どのような組合せであれ新保守翼賛政権であることに変わりはない。

再編の動きが具体化するにつれて、「政治無関心層」の増大や、次の総選挙での投票率低下まで予測されているのも、当然と言えよう。

存在証明のための野合に意味はあるか

現在、こうした政治の流れに合わせ、全国の闘う人々、左翼諸勢力の間で新たな統一

・新党結成に向けた議論が展開されている。小選挙区比例代表制が露骨な少数勢力排除で貫かれていくこと、そして「政治大国化」へと進む現状への危機感が、その背景にはある。今年一年、議論と現実問題としての模索が繰り返されていくことになる。

しかし我々は、現在行われている議論には疑問を持たざるを得ない。一つは、新勢力の結集が、社会党の分裂―その「良心派」との提携と「他力本願」を前提に語られていること。もう一つは、基調にあるのが前述の危機感に過ぎないことである。

「社会主義体制」の崩壊を機に、変革を目指す主体の思想的混乱と解体も凄まじい勢いで進んできた。言うまでもなく、世界の激変の中で、我々

もまた存在意義が鋭く問い返されているのである。そうした現状の正確な認識と歴史的・思想的切開、総括を抜きに「統一」「新党」は、極論すれば、追い詰められて自らの存在証明を求める野合に過ぎない。

歴史は今、誰も経験したことのない新たな混沌を迎え、人々は身近な現実とその事を感し始めている。そして、その実感が、支配体制にホコロビと亀裂を生じさせている。我々に今問われていることは、こうした人々の動向を的確につかみ、亀裂に切り込み拡大させていく闘いを通じて、それを変革への力量として蓄積していくことである。

本紙も、この一年、全力を尽くして、その闘いの一翼を担うつもりである。

情報ひろば

関東

▼怒りをうたえ―70年安保・沖縄闘争記録映画全3巻一挙上映
1月15日（土）午前10時／午後8時／第一部（88・10・21）69・5・31（2時間54分）、第二部（69・6・8）69・11・17（2時間42分）第三部（69・12・1）70・6・23（2時間28分）船橋市労働市民センター
報告・討論・懇親会、16日討論・交流会決議他／神戸学生青年センター（阪急六甲）／三〇〇〇円（宿泊代・15日集会費含む）懇親会費一〇〇〇円／申込・078185112760（はんで迷いこんだ世界経済）渡辺雄三（渡辺政治経済研究所）
1月28日（金）午後6時半／9時／「コメの自由化問題を考える」本野一郎（神戸市西農協）大坂・府立文化情報センター（地下鉄肥後橋、住友中之島ビル5F）／五〇〇円／連絡・06143611404（砂場）
▼反天皇制運動全国交流会
1月15日（土）午後7時／16日（日）正午／15日／兵庫特別報告・各地
マテック（地下鉄今池）／一般・一六〇〇円（前売一三〇〇円）、学生一三〇〇円（前売一〇〇円）／「イレイザーヘッド」完版「ロードショー」1月6日（木）／1月26日（木）／名古屋シネ

関西

▼連続市民講座「いま、世界を読む」
1月14日（金）午後6時半／9時／「袋小路に迷いこんだ世界経済」渡辺雄三（渡辺政治経済研究所）
1月28日（金）午後6時半／9時／「コメの自由化問題を考える」本野一郎（神戸市西農協）大坂・府立文化情報センター（地下鉄肥後橋、住友中之島ビル5F）／五〇〇円／連絡・06143611404（砂場）
▼反天皇制運動全国交流会
1月15日（土）午後7時／16日（日）正午／15日／兵庫特別報告・各地
マテック（地下鉄今池）／一般・一六〇〇円（前売一三〇〇円）、学生一三〇〇円（前売一〇〇円）／「イレイザーヘッド」完版「ロードショー」1月6日（木）／1月26日（木）／名古屋シネ

各地

▼名古屋シネマテーク「イレイザーヘッド」完版「ロードショー」1月6日（木）／1月26日（木）／名古屋シネ

戦後左翼運動の歴史を検証する

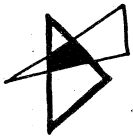
1 吹田・枚方事件

〈検察特別研究資料〉

「吹田・枚方事件について」

第1部・吹田騒擾事件

・6・25記念日闘争の一環としての吹田騒擾事件の全貌



以上の宣伝ビラは、その発行名義人が日共、祖防、民戦の各下部組織に亘って、以上に掲げたもののみでも二十数種である。宣伝活動に下部機構が総動員されたことを如実に物語っている。又、その宣伝活動の範囲は、大阪市内は勿論、大阪府下全般に亘って、如何に六・二五闘争への盛り上げに狂奔していたかが窺われ、一方、後記するところの宣伝活動に対する上部の指令が、如何に下部機構によって忠実に守られていたかを示すものである。これらの宣伝活動において、六・二五記念日闘争の第一の目標が伊丹飛行場となっていることは注目す

(第三節)集会、記念行事等の活動

民戦中央委員会及び関西祖防委員会の六・二五闘争に対する指令が出された前後における各種団体の計画した実践行動、大衆的集会は次の通りである。

第一集會、記念行事

一、府学連主催の破防法粉砕講演会

六月一日大阪市中之島中央公会堂で行われた府学連主催の破防法粉砕講演会には、約一六〇〇名の参加者があったが、講演会終了後約一五〇名の学生が、破防法粉砕、徴兵反対、学園の自由を守れとのスローガンを掲げて、大阪駅その他二方面に別れて無届デモを行い、警察職員の解散警告に応じなかったため、遂に実力行使によって解散させられた。

二、生協同主催の国民総決起大会

六月二八日夜、大阪市中之島中央公会堂で行われた生協同主催の国民総決起大会には、約三六〇〇名が参加した。大会席上民戦大阪府本部議長より「来る六月二五日の動乱記念日こそ反戦独立の日として米帝に対抗し、勝利を勝ちとらなくてはならない」

べきであって、警察機関に対し、事前情報と相俟ってデモ隊の攻撃目標は伊丹飛行場との印象を与えるに力あったものである。ここで疑問が起ころ。本件の首謀者の真の攻撃目標が吹田操車場であったのに拘らず、この企図を隠蔽するために、故意に、計画的に、敵を欺かんとするものは先ず味方を欺くとの故智に倣って、攻撃目標を伊丹飛行場と誇示したものであろうか。このことは、吹田操車場をその管内にもつ吹田市警、三島地区署管内においては、一片の事前情報も漏れず、又、宣伝活動も緩慢であった事実とを顧みるときは、興味深いものがある。

人小生学校において解放二周年記念の運動会が開催され、終了後、民戦、民愛青の幹部によって六・二五記念日に実施する具体的な闘争行動についての協議が行われた。

五、民愛青東成支部結成大会等

六月二日大阪府東成区西今里中学校において東成青年会議主催の演芸会が開催され、六・二五記念日闘争の意欲昂揚を図ると同時に、民愛青東成支部の結成式が行われた模様である。その他大阪市生野区生野元朝鮮人東中川小学校においても、民戦主催の演芸会が開催され、同様六・二五記念日闘争の意欲昂揚を図る煽動活動が行われた模様である。

六、泉大津市における民戦系朝鮮人の集会

泉大津市では六月二日泉大津民戦支部議長団K外七名を挙げたところ、同日夜間より六月二日早朝までの間に旧朝鮮人小学校内に民戦系の幹部等約三〇名が出席して対策会議を開いた。その結果、六月二日より二五日に至る間に市内及び近接各地の朝鮮人約三〇〇名を動員して、火焰瓶、竹槍等で武装して市役所、警察署、税務署を襲撃することを議決した。

第二その他

六・二五記念日闘争の主たる攻撃目標が伊丹飛行場に指向されているとき、吹田操車場を対象とする特異な動きが引き続いて起こっている。吹田操車場の偵察隊の行動でもあろうか。

一、吹田操車場構内不法侵入

六月一七日午後二時半頃、一見朝鮮人風の男三名が(中一名はハンマーを携帯していた)線路に沿った南側道路から吹田操車場構内に侵入し、岸部北集中(貨物列車下り編成信号所)及び電気モーター室(自動信号機・転轍器・圧縮ポンプ室)付近に至り、約一〇分後には立ち去った。その退去後調査すると、東京起点五五五・九の地点から約一〇〇m西の地点間のポイント線三本と、東京起点五五五・五の地点のポイント線一本とがハンマーのようなもので叩きつけられているのが発見された。侵入目的は不明であるが、これについて大阪府警視庁は、本件は祖防隊員による破壊工作未遂事件であったとの情報を得ている。

二、国鉄寮への警備状態調査

六月二〇日午後六時三〇分頃、大阪府三島郡味舌町所在の国鉄味舌鉄道寮に、愛国青年同盟員と称する朝鮮人三名が訪ね、寮長Yに面会し、寮生との個人面接を求めたので、同人は居合わせた国鉄吹操分會執行委員Sに面会させた。朝鮮人三名は同人に対

し「破防法をどう思うか」「国鉄の組合の動きはどうか」等と質問したが答えを得られず、更に「吹田の警備状態は」と質問し、同人が「公安が四〇人、警備係が二〇人程度で警備している」と答えると、次いで「見張り及び夜の警備状態は」と質問したが、答えを得られなかった。三問答の末立ち去った。なお、同人等は立ち去る際に、一九五二年五月三〇日発行祖国防衛委員会機関紙西日本版細菌戦特輯号一〇部及び「祖国の為に闘う人々」と題する小冊子二部を置き去っていた。味舌寮訪問の意図は不明であるが、六・二五闘争と全く関連がないものとは断ぜられない。

第三、六・二五記念日における各地の記念行事計画

既に記したごとく、六・二五記念日における最大の大衆動員は、六月二四日の待兼山における前夜祭であるが、その他大阪府下各地において、六・二五

第五章●警察機関の情勢判断と警備態勢

(第一節)大阪府警視庁

第一 六月二四日に入手した情報

六月二四日までに入手した情報は既に掲げたところであるが、六月二四日には次の通りの情報が入手され、六・二四前夜祭及び六・二五記念日における実力闘争への事態は緊迫の度を増したものと認められたのである。

一、民戦の動向に関する情報

(1)各地区で大会を開催し、区役所、税務署、警察署へ各種陳情抗議を行い、警備部隊を牽制する。
(2)民戦東成支部では、管内の特需工場、東洋鉄線、油谷鉄工、瓜生製作所に対し実力闘争による破壊工作を行う。
(3)生野地区では、待兼山集会に参加する行動隊には火焰瓶並びに破壊弾を携行使用させる。

二、日共大阪府委の動向に関する情報

(1)二五日前前零時を期し、待兼山、五月山(池田市)の二カ所で大篝火を焚き勢を挙げる。
(2)山林内における焚き火は法律違反となるから、消防その他が必ず弾圧に来る。来ればことを構えて口論し、投石して応戦し、その間に他の一隊は付近の米軍ハウス及び伊丹プロペラ工場を攻撃する。
(3)部隊は民青、自由労務者、学生、愛国行動隊及び一部朝鮮人とする。

記念日の集会、行事が計画されて、各種の集会、行事が行われ、その後無届デモが強行される気配が極めて濃厚であった。これらの記念日の集会、行事は各地区への警備力の分散を策し、六・二四待兼山前夜祭への警備力の集中を妨害して、待兼山集会の掩護を図るものと考えられたのである。

一、大阪市警視庁管内(略)

二、枚方市警(略)

三、守口市警(略)

四、泉大津市警(略)

五、布施市警(略)

六、国警大阪対策部管内(略)

三、日共東大阪地区の動向に関する情報

(1)六月二四日午後六時頃約三〇〇名が京阪線土居駅に集合し、枚方市の火薬庫並びに変電所の破壊に行く。服装は黒衣を着用し、白衣は絶対厳禁。武器の所持者はこれを携行し、ないものは現地で準備する(この情報は直ちに守口市警に伝えられ、守口市警は午後二時半頃枚方市警に通報したことは前記の通り)。
(2)東大阪並びに河北(淀川東岸、枚方市、守口市、北河内郡)のものは、待兼山の行事には参加せず、別行動隊として枚方へ行く。

四、日共北大阪地区の動向に関する情報

(1)六・二五闘争の主体は朝鮮人団体とし、学生、労働者、市民団体を大動員して、米軍侵略の手から祖国朝鮮を守れのスローガンの下、在日朝鮮人は鞏固な第二戦線を結成して行動する。
(2)軍事基地、軍事輸送、軍需品製造反対の闘争を、伊丹基地を中心に、淡路地区鮮共日共を協力させて行う。なお伊丹現地では神戸側が直接指導する。
(3)宮原操車場に対する闘争としては、東淀川区、三島地区鮮共及び生協同の尖鋭分子がこれに当たる。
(4)軍需工場に対する闘争は、此花区の汽車製造、住友等の西六社を目標とする。
(5)列車襲撃は、二三時吹田発軍用列車七一一号を目標とする。